

南相馬への原発事故4周年記念ツアーで多くを学ぶ！

2015年4月 実行委員・小野精司

「福島原発事故被災地の子ども達を湘南藤沢へ呼ぼう！」保養活動の実行委員やボランティア10名が、大震災4周年を記念してレンタカーで南相馬を訪ねました。

3月10日(火)朝7時に藤沢教会を出発。高速湾岸線と常磐道を経て、いわき市に到着。3年間の保養活動で知り合った檜葉町の元町会議員・松本喜一さんといわき駅前12時に合流。いわき市内の檜葉町仮設住宅で、親戚(84歳)の4畳半一間だけの住居に入る。次に明星大学のグラウンドの仮設合同校舎(2小学校と1中学校)を見学。児童・生徒数は1/4に減り、小学校は学年毎に1教室、担任教師は2人。除染は表面の土を埋め、特殊ビニールシートで被い、よそから持って来た土を被せる。放射線量は0.1uマイクろSvシーベルト以内、ただし林は0.5と高い。

最近全線開通した国道6号線を走り、道の駅・小名浜駅で昼食。いわき市ではこの近辺の津波被害が甚大とのこと。海岸に沿って北上、松並木が津波の勢いを弱めたが、内側は何にも残っていない。堤防工事が続く。単身用仮設住宅の無人自宅に立ち寄りした。そこは鮭の遡上する木戸川に近く、大きな平屋、早く帰りたいとの気持ちが分かる。線量は道路0.1、庭0.3、杉林0.5でした。

檜葉町は避難指示解除準備区域で、一時帰宅者向け、放射線スクリーニングポイントがあり、私達も掌から頭・体の前後・靴底まで体験。海岸近くの松本さんの流された家の跡、1階を津波が通りぬけ放置された2階建ての家、住民が避難した高台の集会場、流される自分の家を眺めた場所など。

ちらりと見えるのは福島第二原発。もし松本さんの案内がなければ、このように細部まで見ることはできなかったと大いに感謝！富岡駅跡で松本さんと別れ、再び6号線を北上して南相馬市へ向う。線量計の値はグンと上がり、ピーピーと警戒音が鳴り続く。大熊町で最大5.2を記録。遠くに大型クレーンが見えるあたりが福島第一原発だろう。

18時に宿舎のカリタス原町ベースに到着。温かい野菜たっぷりの豪華夕食を待ち受けてくれた人達と一緒に味わう。オリエンテーションが開かれ、カリタスジャパンが東日本大震災以後の基地として旧幼稚園を借り上げて運営し、多くのボランティアの働きを支えている。その後、藤沢保養に参加した林さんと井戸川さんら5人が来て、浅野さんのFB仲間の富田さんや同宿の方々とも懇親会。現地ならではの率直な話を色々と聞いて、大きなショックを覚えた。

翌11日(水)は、朝7時原町教会の記念ミサに参列。隣の幼稚園は経営上2歳から預かる保育園化していた。室内には砂場やジャングルジムやブランコがあった。校庭は除染され人工芝が張られ、外で遊べるようになったという。南相馬市立石神第1小学校へ。藤沢保養された百井先生が勤務中の学校のポールに半旗が掲げてありました。教頭先生と百井先生が案内と説明。約200人の在校生が現在は90人に減少。原発から30km圏内、校庭は除染されており、校庭の線量計は0.103。甲状腺検査を年1回、ホウルボディカウンタを年2回実施。給食は県外産を使用中。

東北高速道は降雪で通行止めとの情報があり、昨日と同じ常磐コースを戻ることにして、藤沢保養された王さんの中華料理店で昼食を摂る。どれも美味しく感激。道の駅・南相馬で土産を買

い求めてから、大津波に襲われた海岸方面へ回る。がれきの山は全て片付いて何もなく荒涼とした風景。汚染土を入れた黒いビニール袋が至る所に山積、堤防のかさ上げ工事が続く。トラックと乗用車が整然と並ぶ、被爆した車の墓場など。

いよいよ『14時46分』を迎えた。サイレンが鳴り響き、私達は原発反対の祈念プラカードを手に持って黙祷した。4年前のその時間、大津波が押し寄せた南相馬市小高区に再建された集会所前に立ち、無力感に言葉も出ない。周囲の線量は0.8でした。

双葉町から常磐高速道に向かう。線量は0.4から0.9、帰還困難区域の双葉町に多数の検問所があり、商品が散らかったままの商店、入口を封鎖された家々を見て胸が痛む。手元の線量計で高速道入口は3.6、掲示板は5.2でした。再び首都高速道を通り、藤沢教会への到着は22時半でした。

今回のツアーはとても密度の濃い内容であり、今後の保養活動に活かして行くことを話し合い、帰宅しました。

添付写真8枚。 3,4, ページをご覧ください。

① いわき市に仮設された檜葉町の合同小中3学校

② 檜葉小の掲示「ふるさと檜葉を調べよう」

③ 同上「福島からみんなの今をつたえよう」

④ 福島第二原発への道路は通行止め

⑤ 大津波被害で放置された檜葉町の民家

⑥ 幼稚園の室内に砂場とジャングルジム

⑦ 宿舎カリタス原町ベースの方達と記念スナップ

⑧ 南相馬市小高区集会所の慰霊碑前でプラカードを掲げて抗議

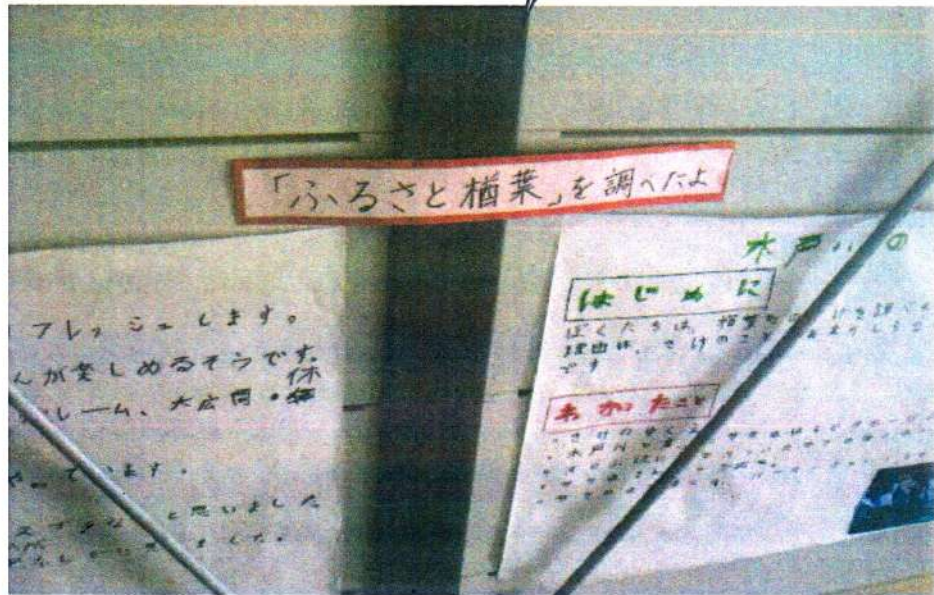


1

2



3



4



5



6



7



8



2015. 3.
福島県一
全員感想文あり。
載せたいですわい。

* 黒い塊・・・フレコンバッグ

澄み切った空に山々が連なる東北の田園風景こそわがふるさと。なぜそこに無神経にも累々と並ぶ不気味な黒い塊。思わず、やめて！ひどい！と車中から声が上がった。私が大切にしていた日本画にだれかがいきなり黒いマジックで落書きをした。そんな許しがたい怒りが込み上げてきた。

* さゆり幼稚園

ここも線量が高いので除染したという。カトリック教会に併設された幼稚園の庭は広く、園舎も真新しくとても綺麗。なのに外にあるはずのブランコ・シーソー・バスケット・遊具、それに大きなお砂場がところ狭しと室内に備えてある。ン？若殿の座敷牢？かわいらしくカラフルで美しいだけにギョッとさせられる。

* 仮設住宅

明るい見通しもなく深い傷を抱えたままの4年はとても長い。

震災直後に訪ねた石神第2小学校の体育館は段ボールで仕切られただけのもので、仮とはいえ人が暮らせるところではないと思ったが、辛くともまだ絶望する時期ではなく、まだ可能性はあったにちがいない。

しかし堪えてたえて4年目の仮設住宅住まいは、震災直後のあの段ボールとさほど変わらないように思える。庭もなく、びっしり並んだ長屋の四畳半一間のベッドと炬燵とテレビとの隙間は伸びをするのがやっと。プライバシーも守られているとは思えない。これで希望がなければ、身体が心が壊れていくのではないか。訪ねた〇〇さんは線量のまだ高い元の家に戻ると言う。たとえ裏庭が5.7マイクロシーベルトであっても、近隣のいない寂しさや不都合はいろいろあるとしても仮設の4年目はもう限界なのだろう。

* あすなろ交流広場

被災者自ら町の復興を志し、幾つもの困難を乗り越えて小高地区の拠点、住民の憩いの場づくりを目指して 準備をしている女性に会った。原発事故の驚くような過酷さに立ち向かう勇気には敬服するばかり。会話が進むほどに、親しみが増し、話題が原発になったとき彼女は「私たちは反原発でも推進派でもない、ただ穏やかな日々を取り戻したいだけです。」と涙をこらえて言い切った。

思いがけない言葉に一瞬引いてしまったけど悲鳴ともとれるその言葉は一向に復興が進まない現実に対する被災者の痛みそのものだったのだろう。胸に突き刺さるほど彼女たちの苛立ちが伝わってきた。

私はこの言葉の意味を大切にしたい。運動を担う者はいくら頑張っているつもりでも自己満足なのかもしれないし、本質を見損なっては彼女たちの思いとはすれ違ってしまふ。心していきたい。

* 祈り

国の復興予算の使われ方を聞いてなるほどと思ったが、まさかこれしか進んでいない現状に驚きと怒り、と同時に無力感に落ち込んでしまふ。4年ぶりの南相馬の海近くに立ち、サイレンとともに亡くなられた方のご冥福と被災された方々の心の傷が少しでも癒され、希望の届く日の1日も早いことを祈り、帰路についた。